

# 新規作業者のための危険箇所ガイド

## 概要

### 「知らなかった」を防ぐために

新規作業者の方が、知らないがゆえに負う危険を少しでも軽減することを目的に作成。

一連の作業手順の中から危険を伴う箇所のみを焦点を当てているため、簡潔で簡単に読める。

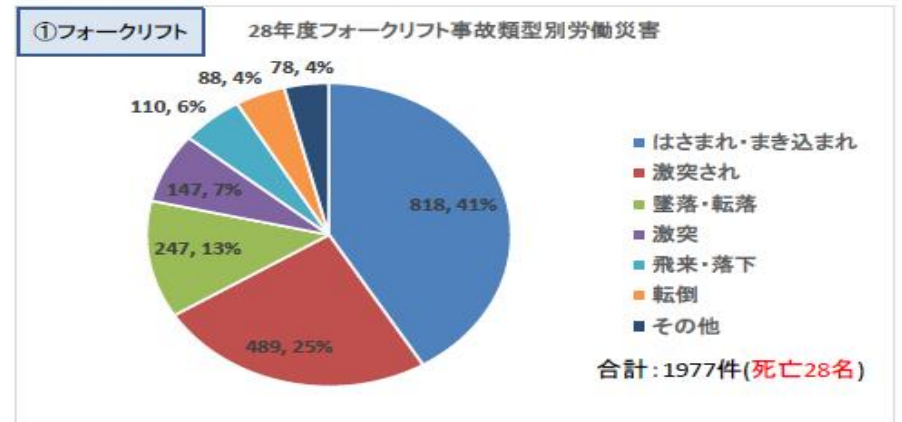
## 構成

1. 導入(労働災害の現状把握)
2. 危険箇所マップ(目次)
3. 危険回避のための作業手順書

【導入部】 自分に置き換えて考えられるように

### 危険箇所の確認をする前に…

みなさんの周りでも起こりうる仕事上での事故やケガ、年間でどのくらい発生しているかご存知でしょうか。身近な起因物や症状を例に確認していきましょう。



ト diconでも多くの方が使用するフォークリフト1つを取ってみても、昨年度だけで実に2,000件近くの労働災害が起きています。

この2,000件という数字は、28年度に起きた労働災害全体の2%弱にあたります。はさまれ・まき込まれに関しては、同分類全体の6%弱にも及びます。

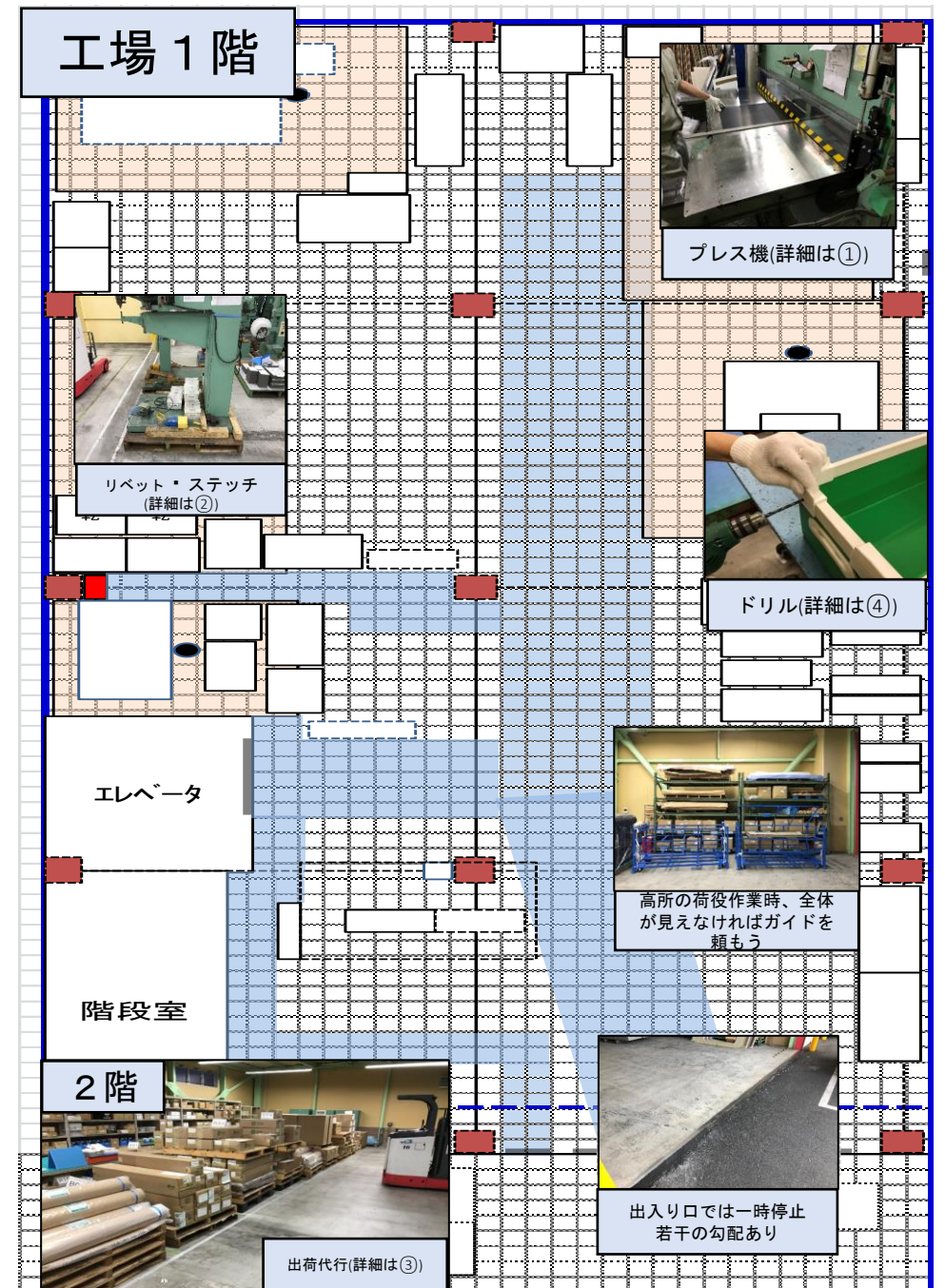
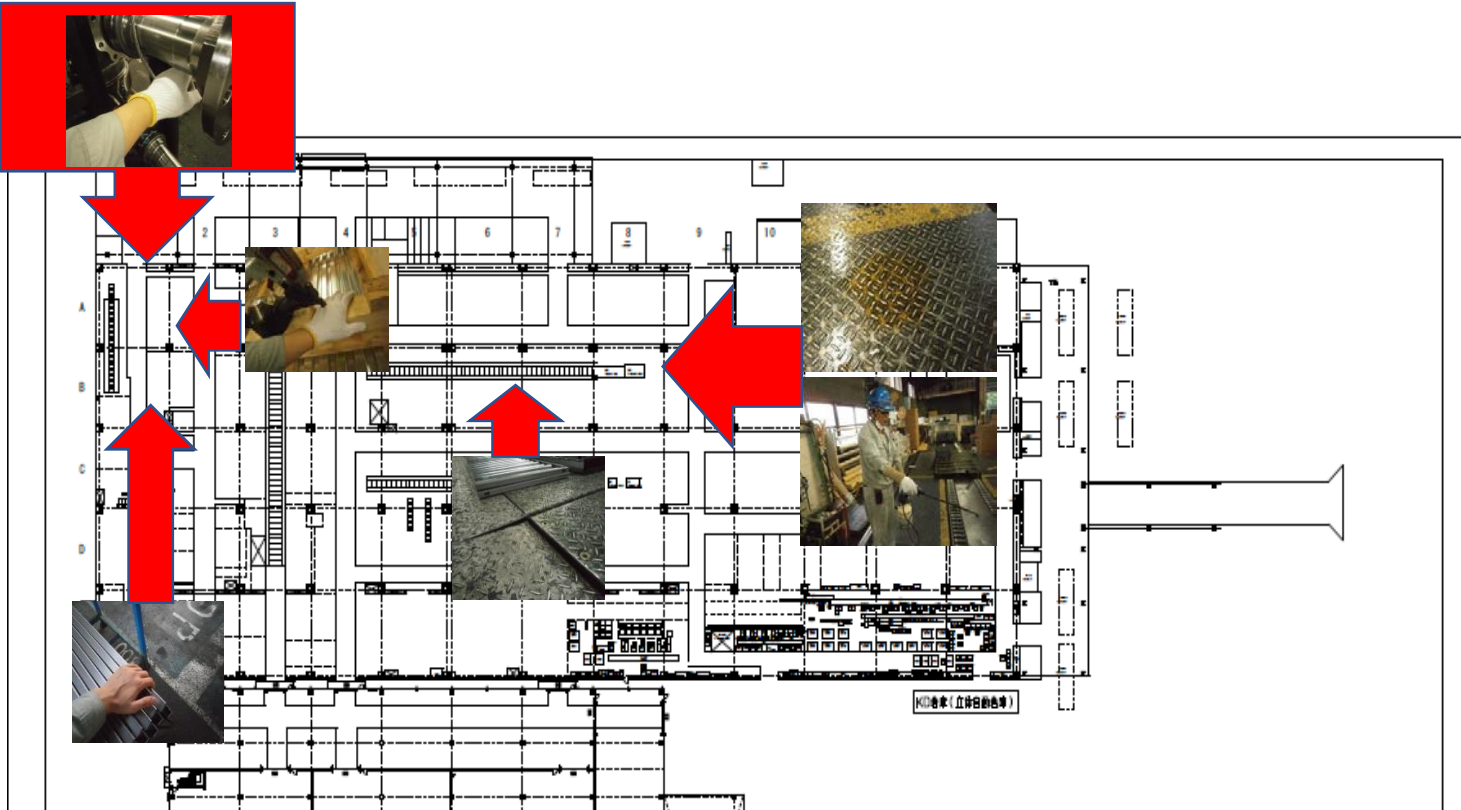


6%弱という数字は決して低いものではなく、誰しにも起こり得る可能性が十分にある高い数字です。自身が気を付けていても他の人の作業に巻き込まれる事故のため、職場全体での安全周知が大切です。

# 【主な危険個所の把握】

目次を兼ねて危険が伴う作業場を簡単に紹介

現場ごとに潜んでいる危険を見える化  
(具体的な内容は作業手順の項目に記載)



# 【危険回避のための作業手順】

事業所ごとに頻度の高い作業・場所から4~5個に絞って作業手順を掲載。

## ① 正規の作業手順

## ② 手順を疎かにした際のリスク

## ③ 印象付けのための関連情報

### リベッター・ステッチャー

製函時、特に角を打つ際は添え手の位置に気を付ける。



支点  
親指付け根側面



支点  
人差し指腹面

・左上写真：親指の付け根側面が支点となっているため、一定の角度以上は下に曲がらない。そのため、打点より上を支えることで誤って挟んでしまうこと防ぐことができる。

・右上写真：一番添えやすい形ではあるが、人差し指の関節を曲げることができるため、何かの拍子に打点に重なり、挟んでしまう恐れがある。

ステッチャーやリベットは金属を打ち付け、形を変えることでかしめる機械です。指を挟めば骨折の恐れがあります。

ロールセッターと違い、菊座やステッチャーを使用する際は、打点に指が入る余地があるため、特に注意しましょう。



リベットかしめ図

### リベッター・ステッチャー

フォークリフトで移動させる際はパレットの中央ではなく、ガイドに合わせて爪を入れる。



実際のガイドは黒色

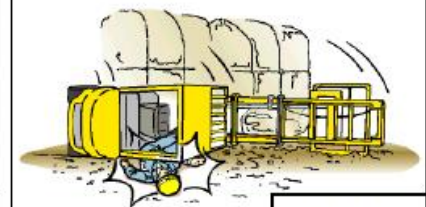


写真のように機械ごとに形状が異なるため、それぞれ重心の位置が異なります。数百kgの重さがあるため、重心が偏った状態での荷役作業は大変危険であり、旋回時などに横転するリスクが高まります。

物損事故で済めばまだよいのですが...



巻き込まれ



転倒

※「はさまれ・巻き込まれ」による事故はフォークリフトの事故第1位で、全体の約30%を占めます。「転倒」は28年は第5位でしたが、死亡者数は第3位でした。

# 【手順書の一部を紹介】

## 切粉(リフト1F前)

リフト1Fの前に部品加工場があるため、切粉が床やパレットに落ちていることがあり、ときには飛来してくる。

切粉



金属片であるため軍手を着用していても危険

### 作業手順

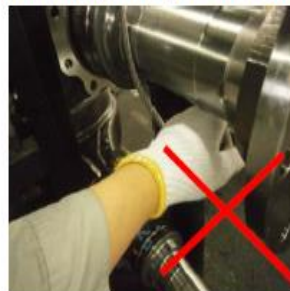
- 1.切粉を発見した際は、軍手着用の有無にかかわらず手では拾わずに塵取りと箒で回収。
- 2.塵取りでとった切粉は鉄くず入れへ。

### 上記作業を怠ると...

- ・素手で触ってしまうと直ぐに切ってしまう。
- ・場合によっては安全靴に刺さってしまうことも。



クレーン作業中 吊り具と部品の間に手を入れているとクレーンで部品を持ち上げた時吊り具と部品に手を挟んでしまう危険があります！



手を挟むと 当然痛いし 骨にヒビが入ったり骨折してしまう可能性もあります！  
他にも クレーンで吊り上げ 移動している部品の進行方向に立つと 部品が激突してしまう危険も！  
激突した勢いで 部品が荷崩れをすと 部品が激突してしまう危険も！  
そのまま部品に押し潰されてしまうかもしれません！  
そうすると 当然死んでしまいます！



クレーン作業をする時は しっかり吊り具を持つようにしましょう！  
他にも 部品が頭の高さまで吊り上げられることもあるのでヘルメットも忘れずに！

部品がどの方向に進んでいるかは クレーンの運転者が しっかり声に出して伝えるようにしましょう！  
声に出してハッキリと周りに伝えれば 部品の進行方向に 人が立ってしまい部品と激突するという事故はなくなります！



copyright(C) Tohkon